

修士論文（要旨）  
2014年1月

NPO と企業の協働による児童労働問題解決の可能性

指導 福田 潤 教授

国際学研究科  
国際協力専攻  
212J1052  
渡邊 エミリ

## 目 次

1、序章 .....	1
第1章、児童労働問題と、解決に乗り出す国際社会	
1.1 児童労働の定義 .....	3
1.2 減少しているが未だ多い児童労働の現状 .....	3
1.3 搾取される児童労働の原因 .....	5
1.4 子どもの未来を奪う児童労働 .....	6
1.5 児童労働解決に向けて乗り出す国際社会 .....	7
第2章、企業の社会的責任と NPO との協働への動き	
2.1 企業の社会的責任とは .....	10
2.2 米国及び日本における CSR への関心の高まりにある背景 .....	12
2.3 企業と NPO の協働への動き .....	18
第3章、NPO と企業の協働—CRM の重要性高まる	
3.1 協働の概要と分類 .....	24
3.2 協働によるメリット・デメリットおよび阻害・促進要因 .....	27
3.3 本業を通じた CSR—Cause Related Marketing .....	29
3.4 CRM の歴史 .....	30
3.5 CRM の効果と類型 .....	31
第4章、CRM による児童労働問題解決へ	
4.1 CRM による児童労働問題解決のステークホルダー .....	34
4.2 児童労働問題解決へのステップ .....	36
4.3 児童労働問題(子ども支援)に関する CRM の事例 .....	39
4.4 森永製菓と ACE による協働—CRM から支援地域のカカオを使用した チョコレート作りへ .....	42
4.5 リー・ジャパンとハンガー・フリー・ワールド、ACE との協働事例 .....	43
4.6 製品の生産過程に児童労働のないエシカル調達・エシカル消費へ .....	47
おわりに .....	51
引用・参考文献	

## 要 旨

世界の子どもの9人に1人が児童労働に関わっている。現在、日本では環境問題をきっかけにCSR(企業の社会的責任、Corporate Social Responsibility)に取り組む企業は増えてきている一方で、この児童労働の問題に対しての取り組みは遅れている現状がある。安く商品売るために途上国の安い労働者を間接的に雇用する日本企業は、この問題と無関係とは言えない。2000年、アナン前国連事務総長はグローバル・コンパクトを提唱し、世界の企業に対して「問題を引き起こすのではなく解決する役割を」と呼びかけた。かつて「良い企業」とは儲かっている企業であったが、今では「良い企業」の基準が大きく変化し、社会に、地球に、人に良いことをしていることが高く評価されるようになってきた。現在、企業はサプライチェーン全体にも責任を負うという考えが世界において一般化している。

企業は社会的課題に対応しなければならないという社会からの要請がある一方、具体的な行動のための資源やノウハウがない。NPOにはそれがあるものの、十分な活動を独自に行うだけの資金や経営のノウハウなどが乏しい。企業とNPOが協働することで、企業が持つ幅広いネットワークと経済力、NPOが持つ社会問題に対する専門性が上手く相互に作用することで相乗効果が生まれる。論文では児童労働問題解決のために、NPOと企業が協働する手法としてCRM(寄付込み商品、Cause Related Marketing)に注目する。CRMとは企業とNPOとが協働し、社会問題に関するキャンペーンを組むことを通して、売り上げの一部を寄付するように企画したマーケティング手法である。自社の製品に対して寄付システムを組み込むという点において「コアビジネス(本業)」として社会問題に取り組むCSRの手法である。

CRMはエシカル社会の入り口的存在ではあるが、その波及効果によって児童労働問題解決の糸口になるのである。日本で児童労働を知っている人は少なく、児童労働を正しく理解している人となるとほんの一握りしかいない。そんな日本においてまず必要なことは、児童労働問題の存在を知ることである。そのうえで関心を持たせ、行動に促すことが必要なのだ。CRMはそのきっかけとなる。論文では児童労働に関係のあるCRMの事例をあげ、CRMによる児童労働問題解決の可能性を探りたい。

具体的には森永製菓株式会社と、リー・ジャパン株式会社の事例中心にあげる。森永とNPO法人ACEはCRMを通して「1チョコ for 1スマイル」キャンペーンを実施した。協働はCRMから始まり、サプライチェーンに児童労働のない原材料調達を協働して実現するという大きな前進を遂げた。またリー・ジャパンは「Born in Uganda Organic Cotton Project」によってNPO法人ハンガー・フリー・ワールドとCRMによる協働を行った。この事例でも「児童労働がない」ことを調査するCSRレビューを実施するまでに至った。2つの事例共に最も大きな変化が現れたのは、企業の経営陣や社員の理解が深まったことであった。また、商品を購入した消費者のなかには、NPOの新規支援者(会員や寄付)になるケースも多く、CRMは「児童労働解決へのステップ」でいう1.「認知」2.「理解」から更に進んだ3.「行動」にも影響すると考えられる。

論文では児童労働撤廃への重要なステップとして、いかに企業がエシカルな調達を行い、消費者がエシカルな消費を行うかということを考え、CRMを中心に、その可能性を探っていきたい。

## 参考文献・資料

- グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク「サプライチェーンにおける望ましい CSR 活動のあり方—サプライチェーン分科会からの提案—」2013 年.
- 原田勝広、塚本一郎『ボーダレス化する CSR「企業と NPO の境界を超えて」』同文館出版、2006 年.
- 岩槻由香、白木朋子、水寄僚子『わたし 8 歳、カカオ畑で働きつづけて。—児童労働者とよばれる 2 億 1800 万人の子どもたち—』合同出版株式会社、2007 年.
- 加賀田和弘「企業の社会的責任(CSR)—その歴史的展開と今日的課題—」関西学院大学 KGPS Review No.7、2006 年.
- 香川孝三『国際関係のなかの子ども』第 1 章、御茶の水書房、2009 年.
- 公益社団法人経済同友会「日本企業の CSR—進化の軌跡—」『自己評価レポート 2010』2010 年.
- 海野みづえ、細田悦弘「企業ブランディングを実現する CSR(企業の社会的責任)」産業編集センター、2011 年.
- 長坂寿久『コース・リレーテッド・マーケティング(CRM)と NGO「CSR=企業と NGO の新しい関係(その 4)」』季刊国際貿易と投資 Autumn No.81、2010 年.
- 長坂寿久『NGO・NPO と「企業協働力」』株式会社明石書店、2011 年.
- NGO と企業の連携ネットワーク「地球規模の課題解決に向けた企業と NGO の連携ガイドライン Ver.3」2013 年.
- OECD『世界の児童労働—実態と根絶のための取り組み—』株式会社明石書店、2005 年.
- 白木朋子「ガナー—ステークホルダー—連携の意義と NGO の役割—」『アジア研ワールド・トレンド』No.208、2013 年.
- 特定非営利活動法人 ACE「児童労働の撤廃へ向けた課題と日本ができること」『ACE ワーキングペーパー』No.3、2010 年.
- 横山恵子『企業の社会戦略と NPO』白桃書房、2003 年.

## 参考 HP

- CANPAN NEWS「世界の子どもたちが笑顔になれるチョコ【森永製菓】」  
<http://news.canpan.info/2011/01/post-74.html> (2011.01.20 記事)
- CSR Communicate「リー・ジャパンのジーンズに刻まれたメッセージ」  
<http://www.csr-communicate.com/csrtopics/20130625/csr-26384> (2013.6.24 記事)
- イーココロ「チョコレートが、世界の子どもたちの笑顔をつくる。」  
[http://www.ekokoro.jp/world/interview/c012\\_morinaga/](http://www.ekokoro.jp/world/interview/c012_morinaga/) (2014.1.5)
- 外務省「NGO 報告会」報告書「地球規模の課題解決に向けた NGO と企業の連携に向けて—CSR 推進 NGO ネットワークの活動を軸に—」、平成 21 年度  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda\\_ngo/houkokusho/pdfs/04\\_h21\\_shiryou3.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo/houkokusho/pdfs/04_h21_shiryou3.pdf) (2014.1.5)

## 新聞記事

- 朝日新聞「支持広がるフェアトレード 大手企業も参入、売上額 10 年で急増」、2013.5.9 朝刊.